



## 国際アグリバイオ事業団 アグリバイオ最新情報 2014年4月30日

### 世界

国際研究チームがピーナッツゲノム配列を公開  
発展途上国におけるバイオテクノロジーの経験から得られた10の教訓  
BioVision Alexandria パネルで Borlaug 博士の遺産を讃えて祝賀した

### アフリカ

ブルキナファソ、南アフリカ、ケニアで遺伝子組換え作物について ISAAA が報告  
マラウイでの Bt ワタ試験をジンバブエ農業生産者が見届けた

### 南北アメリカ

米国科学と健康協議会 (the American Council on Science and Health、ACSH) は遺伝子  
組換え食品についての新しい出版物を出した  
オバマ大統領は、農業バイオテクノロジーを明確に是認  
コーネル大学の研究者がバングラデシュ BT ナス農場には、害虫被害がないことを確認

### アジア・太平洋

フィリピン農務省の管理官と作物研究者が遺伝子組換えに関する広報について訓練を受け  
た  
遺伝子工学評価委員会 (The Genetic Engineering Appraisal Committee, GEAC) は、11 新  
品種の遺伝子組換え作物の実地試験を許可した  
ISAAA は「Bt ワタの七不思議」というインフォグラフィックを制作  
バングラデシュ農業大臣は、環境ストレスのための作物や技術の開発に生物工学者の働き  
を促した  
韓国における植物バイオテクノロジーに関するセミナーシリーズ  
遺伝子組換えジュートがインドの遺伝子工学評価委員会 (The Genetic Engineering  
Appraisal Committee, GEAC) の承認を求めている  
ISAAA は、「インドの BT ナスの物語」のビデオを発行

### ヨーロッパ

環境・食糧・農村地域省 (The Department for Environment, Food and Rural Affairs、  
DEFRA) は、遺伝子組換えカメラナ (和名：アマナズナ) の圃場試験を承認  
オランダ政府は、バイオテック政策を明らかにした

## 世界

### 国際研究チームがピーナツゲノム配列を公開

多国籍作物遺伝学者のグループで構成された国際ピーナツゲノムイニシアティブ（IPGI）がピーナツのゲノム配列を決定した。*Arachis duranensis* と *Arachis ipaensis* の栽培種の母本のゲノムを配列決定した。この配列公表で、旱魃や病気への抵抗性、低資材投入、高収量に関する遺伝情報を含む全体の遺伝子の96%を手に入れたことになる。

ピーナツゲノムの配列を決定研究は、数年前から進められてきた。マメ類の複雑な遺伝子構造については、ほとんどわかっていなかったが、数千年にもわたり育種され、盛んに栽培が成功裏に行われてきた。

IPGIの一員である Rajeev Varshney 氏は、以下のように言っている。「ピーナツのより旱魃耐性で害虫や病害抵抗性への品種の改良は、開発途上国の農業生産者が農薬やその他の化学薬品を少なくしてより多くの生産を上げるのに役立ち、先進国では、家族を養い、よい暮らしを構築する上で役に立っている。」

本研究の詳細については、ニュースリリースが以下のサイトにある。

<http://news.uga.edu/releases/article/first-peanut-genome-sequenced/>。IPGI とこのプロジェクトに関わる機関の詳細については、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.peanutbioscience.com/>。

---

### 発展途上国におけるバイオテクノロジーの経験から得られた10の教訓

アジアのバイオテクノロジー及びその開発に関する総括が発表された。その表題は、「発展途上国における小規模農業生産者のための作物、畜産、水産に関わるバイオテクノロジーの経験から得られた10の教訓」である。James D. Dargie, John Ruane, と Andrea Sonnino によって書かれた国連食糧農業機構（FAO）のプロジェクト報告書である。

FAO は、農業バイオテクノロジーが発展途上国の小規模農家のニーズに応えるために使用された19のユニークな事例研究シリーズを委託している。ほとんどが単一の作物、家畜や魚種とバイオテクノロジーに関するものである。これらの事例研究から、10の一般的かつ相互関連のある教訓を引き出し、小規模農業生産者のためにバイオテクノロジーを導入するに当たっての有効性を決定する際に政策立案者を支援できるように作成したものである。

教訓の例示は、以下の通りである。

- ・政府の意思決定と提供者や国際機関からの支援の必要性；
- ・国内外のみならず小規模農業生産者自身のパートナーシップの必要性

そして

- ・科学及び技術に基づく長期的な投資の重要性の認識が必須である。また科学に基本を置くバイオテクノロジーと伝統的な知識の適切な統合も同時に必要だ。

この研究はまた、計画、監視、およびバイオテクノロジー応用の評価が弱いので強化されるべきであることを明らかにした。

この報告書は、以下のサイトからダウンロードできる。  
<http://www.fao.org/docrep/019/as351e/as351e.pdf>

---

## BioVision Alexandria パネルで Borlaug の遺産を讃えて祝賀した

2014年4月8日にエジプトで開催された BioVision Alexandria は、Bibliotheca Alexandrina と世界生命科学フォーラムが主催した 21 世紀に直面する生命科学の課題に対応するさまざまな方法を模索する情報と対話の交換のための場を提供するためにものである。プログラムの一部は、「Norman Borlaug と緑の革命：これからの百年」に関するパネルディスカッションで、食と農への、そしてノーベル平和賞受賞への Normal Borlaug 博士 の貢献に感謝するものであった。

パネルディスカッションの議長は、Norman Borlaug 研究所の創設ディレクター Malcolm Elliott 博士が務めた。Normal Borlaug 博士が「緑の革命の父」であることは周知であり、また、小麦の品種改良の革新的な研究を通して飢餓から数億人を救った農業科学の「rock star」として考えられていると Malcolm Elliott 博士が述べた。パネルディスカッションでは、先端科学が作物生産を強化する方策と課題に役立つことに焦点が当てられた。Bibliotheca Alexandrina (Egypt) 所長の Ismail Serageldin 博士は、1986 年に笹川アフリカ協会 (SAA) プロジェクトで Normal Borlaug 博士と共に働いた再の忘れられない思い出を語った。このプロジェクトを通じて、アフリカ諸国のトウモロコシとソルガムの収量が倍増した。彼は、Normal Borlaug 博士は、「それはあなたの志によるところです。」話されていたことが心に残ると述べた。

ISAAA の創立者で名誉理事長の Clive James 博士 は、Borlaug 博士についてもっと感動的なことを語った。「彼は、他の人が賢いと思う以上に賢く、他の人が真実と思う以上に真実を、他の人が救えると思う以上に救い、他の人が不可能と思うことをやり遂げる期待と夢を持っていた。」と語った。Clive James 博士は、長きにわたり Borlaug 博士と時間を過ごし、また、ISAAA 概要 46 (遺伝子組換え作物商業栽培の世界的概要) を ISAAA 設立の支援者である Borlaug 博士に捧げている。更に、Borlaug 博士は、50 年以上にわたり、食糧が最も必要な地域に食糧を提供するために働いたと付け加えた。このように、Borlaug 博士の情熱は、後に続く人々に感動を与えるものである。

Borlaug 博士の生誕百周年祝賀行事の一環として、Clive James 博士は、ISAAA Borlaug 博士の生誕百周年エンブレム をこれからの世界の食糧供給に貢献した 3 人の著名な科学者に贈った。エジプトのためだけでなく、世界のために知識の源となっている Ismail Serageldin 博士、The Norman Borlaug Institute (UK) の創設者 Malcolm Elliott 博士、ISAAA 理事会の秘書を数年務め、Thousand Oaks, California (USA) の Ceres Inc. の首席科学顧問 Richard Flavell 博士に贈られた。

「我々が必要なのは、未だに古い、効果的でないものしか使えない農業生産者の指導者に勇気を与えることです。」と Clive James 博士は、結論づけた。



(左から右へ) BioVision Alexandria でパネルディスカッション行われた際の ISAAA Borlaug 博士の生誕百周年エンブレム受賞者 : Richard Flavell 博士、 Clive James 博士、 Ismail Serageldin 博士と Malcolm Elliott 博士

詳細は、以下のサイトをご覧ください。 <http://www.bibalex.org/bva2014/Home/Home.aspx>  
また、以下のサイトで Naglaa Abdallah 博士と連絡をとって下さい。 [nabdallah@e-bic.net](mailto:nabdallah@e-bic.net).

---

## アフリカ

### ブルキナファソ、南アフリカ、ケニアで遺伝子組換え作物について ISAAA が報告

ブルキナファソは、2014年2月19日に ISAAA 概要 46 (遺伝子組換え作物商業栽培の世界的概要) を打ち上げた最初の国となった。第5代副大統領 Korotimi Séré 女史が科学技術省の高官、ブルキナファソへの米国の大使館の代表、国立農業研究所所長、と指導的綿会社 SOFITEX の技術マネージャーが参加したかいを主宰した。電子および印刷メディアから合計25人のジャーナリストも参加した。



講演で Séré 女史は、Bt ワタが国の農業生産者にもたらした社会経済的利益に満足感を表明するとともに関係者にバイオテクノロジーに関する知識を共有するように奨励した。



概要 4 6 をケニアで打ち上げた。左から右へ:Margaret Karembu, ISAAA, Hon. Kaleke Mbiuki, Hon. Cecilia Ng'etich, Romano kiome 博士、国際家畜研究所、Hoh. Christine Ombaka 博士、James Onsando、ケニア植物検疫所と Dorington Ogoyi 教授

南アフリカとケニアは、2014 年 2 月 28 日に ISAAA 概要 46 を打ち上げた。南アフリカは、プレスリリースで報告を開始し、広く 2,200,000 メディア印象点を挙げた。ケニアでは、打ち上げに議会議員 3 人が出席した: Hon. Cecelia Ng'etich 氏、Hon. Kaleke Mbiuki 氏と Christine Ombaka 博士が参加した。議論は、主にケニアへの遺伝子組換え食品の輸入を解禁する必要性を中心に行われた。報告を行う中で議会議員農業委員の Hon. Mbiuki 氏は、政府が解禁することの期待を表明し、ケニアの農業生産者は、バイオテクノロジーから多大な利益を得ることになる。特に灌漑方式を取り入れた新しい遺伝子組換えトウモロコシからの利益が大きいと指摘した。

これらの詳細については、ISAAA AfriCenter の Margaret Karembu 女史に以下のサイトで問い合わせください。 [m.karembu@cgiar.org](mailto:m.karembu@cgiar.org)

### マラウイでの Bt ワタ試験をジンバブエ農業生産者が見届けた

ジンバブエの生産を増加し、繊維衣料産業を復活させるために Bt ワタの導入を考えることはジンバブエにとっては必須のことである。これは、マラウイの Bt ワタの圃場試験見学に参加した農業生産者の代表によると必須である。ジンバブエ農民連合の Berean Mukwende 氏は、ジンバブエの農業生産者がオオタバコガの幼虫 (bollworm) の侵入による大規模な損失を経験していると述べた。彼は、Bt ワタの導入は、この問題の解決策になり、農業生産者の利益を高めることができると考えている。

マラウイの Lilongwe University で Bt ワタ試験を見た後、ジンバブエ全国農民連合の Garikai Msika 氏は「この技術を採用する多くの声をあげる」ことを彼の仲間の農業生産者に奨励した。

「マラウイは、要望に応じた科学研究を推進したい。」とマラウイの農業研究サービスの副所長 Ibrahim Benesi, 博士が語った。マラウイの農業研究サービスの副所長は語った。彼は、政府一員として科学を阻害したくないと言った。「我々は、農業の利益のために科学を促進したい。良い技術があれば、我々は人々が私たちのバイオセーフティ規則と手順に従ってそれらからの利益を提供したい。」と彼は付け加えた。

ジンバブエはまだ組換え作物の商業栽培を承認していない。しかし、政府は、研究、輸送、輸入、製造、安全な取り扱い、及び遺伝子組換え生物及び製品の使用を規制する国立バイオテクノロジー庁を 2006 年に設置している。

詳しくは、以下のサイトを見て下さい。 <http://allafrica.com/stories/201403311302.html>

---

## 南北アメリカ

### 米国科学と健康協議会 (the American Council on Science and Health、ACSH) は遺伝子組換え食品についての新しい出版物を出した

カリフォルニア、米国最大の農業生産州は、旱魃による深刻な水不足の 3 年目になっている。これは乾いた畑地、作物を枯れさせことにつながり農業生産が低下している。収穫量を減少させることは、米国全体の食料価格高騰を意味する。

この問題に対処するために、科学と健康に関するアメリカ協議会 (ACSH) が *何の話? 遺伝子組換え食品とは* というタイトルの出版を出した。この中で 農業バイオテクノロジー が与えられた環境圧力の下で農業生産性を高めることができる理由を説明している。ACSH 理事長の Elizabeth Whelan 博士によると、農業バイオテクノロジーは、世界食糧飢饉地域に食糧供給の可能性を提供している。このように、技術は歓迎されるべきであり、恐れるものではないとしている。本書のハイライトは次の通りである。

- ・一部の 遺伝子組換え作物 が旱魃状態でもよく育つ。
- ・遺伝子組換え農業は、同じ農地でより多くの食糧を生産することができる。
- ・米国と世界の人口が上昇するにつれて食糧需要は増加続けている。
- ・バイオテクノロジーは安全であり、1993 年以来問題ない。

ACSH は、遺伝子組換え食品を栽培しても食べても安全であるから、反遺伝子組換え団体が遺伝子組換え食品に反対する根拠がないと強調している。

プレスリリースは、以下のサイトにある。 <http://acsh.org/2014/03/agricultural-biotechnology/> また、この出版物は、以下のサイトにある。

<http://www.scribd.com/doc/213709953/What-s-The-Story-Genetically-Modified-Food>

---

**オバマ大統領は、農業バイオテクノロジーを明確に是認**

2014年3月25日に米国議会でのNorman Borlaug博士の彫像の献呈は、世界への食糧供給に関する業績を輝かせるだけでなく、米国の大統領が農業におけるバイオテクノロジーの重要な役割を明確に是認するように促した。

2014年4月11日付けのJulie Borlaug女史への手紙の中で、オバマ大統領は、彼女の祖父の人生と彼のバイオテクノロジーを通じて世界への食糧供給をすることへの情熱をお祝いすることに参加することが大きな喜びであるとしたためである。彼は、「私は、より大きいバイオテクノロジーへの注力が、私たちの地球の最も差し迫った農業問題の解決に不可欠な要素であるという彼の信念と同じ考えである。」とも書いている。大統領は、更に「私が農務省及び関連機関と協力して食糧安全保障上の課題に対処し、気候変動の影響を緩和するための革新的な解決を探ることを続ける。」と加えた。

Julie Borlaug 国際農業 Norman Borlaug 研究所の渉外担当副部長は、「この手紙は、農業研究とバイオテクノロジーの重要性を認める重要な支援文書である。私の祖父は、2050年には90億人の地球人口の食料を供給する必要がある、農業と気候変動に関して大統領が注目してくれたことに感謝していると思います。」と述べた。

オバマ大統領の手紙は、以下のサイトにある。[http://www.agri-pulse.com/uploaded/Borlaug\\_Letter.pdf](http://www.agri-pulse.com/uploaded/Borlaug_Letter.pdf)。また詳細は、以下のサイトにある。<http://www.agri-pulse.com/President-Obama-provides-clear-endorsement-of-agricultural-biotechnology-04152014.asp>。

---

## **Cornell 大学の研究者がバングラデシュ Bt ナス農場には、害虫被害がないことを確認**

Cornell 大学昆虫学部 Tony Shelton 教授が、バングラデシュの Gazipur 地区にある Haidul Islam Bt ナス農場を 2014 年 4 月 9 日に訪問した。この農場は、害虫被害に遭っており、植物の 25~30 % が失われ、残った作物が何とか収穫されるように所有者の Haidul Islam 氏がより多くの殺虫剤を散布していると噂されていた。

Shelton 教授がこのような噂は、真実ではないことを確認した。Haidul Islam 氏は、作物に非常に満足しており、喜んで Shelton 教授に害虫損傷が Bt ナス農場にないことを示した。これまでは農場の所有者は、すでにナスの果実を制御し、ナスノメイガを制御するために殺虫剤を散布するべきところであるが、今は害虫抵抗性があるため全く殺虫剤を使用していない。Shelton 教授は、作物を検査して、殺虫剤を使用していないことを確認した。

この詳細については、Tony Shelton 教授の記事を以下のサイトで読んで下さい。  
<http://btbrinjal.tumblr.com/post/82304996926/in-bangladesh-with-bt-brinjal-farmers>

---

## **アジア・太平洋**

フィリピン農務省の管理官と作物研究者が遺伝子組換えに関する広報について訓練を受けた

45人の管理官、研究者、フィリピンの農務省（DA）・植物産業局（BPI）・肥料および農薬局（FPA）、フィリピン繊維産業開発庁（PhilFIDA）およびVisayasとミンダナオに拠点を置くフィリピンイネ研究所（PhilRice）の吏員や役員が、作物バイオテクノロジー、その世界及び地域での状態と利益、国家バイオセーフティ規制システム、および科学コミュニケーションワークショップで科学コミュニケーションの原則と心構えについて訓練を行った。これは、2014年4月1-2日にCebu Parklane International Hotel, Cebu Cityでの科学コミュニケーションワークショップ：バイオテック知識とコミュニケーションの向上にむけて行われたものである。

開会に当たり ISAAA グローバルコーディネーターで SEAsia センター所長の Randy A. Hautea 博士は、バイオテクノロジー広報にあたっては、ここへの参加者が一般大衆と関わりを持ち、彼らに耳を傾けることが極めて重要であると強調した。DA- BPI の事務局長 Clarito Barron 博士は、バイオテクノロジーの適切な広報と規制政策とガイドラインを伝えることの重要性を確認した。

重要な講演者は、遺伝子組換え作物が食糧安全保障と持続可能な農業と農業生産者に世界的に広範な利用が行われ、貢献していることを話した Hautea 博士、農務省のバイオテクノロジーに関する政策、R&D、情報、教育、広報活動（communication (IEC) initiatives）について話した農務省バイオテクノロジー局（DA- BPO）プログラムコーディネーター Antonio A. Alfonso 博士、フィリピンの厳格なバイオセーフティ枠組みについて話した農務省-バイオテックコアチームの共同議長の Merle Palacpac 女史だった。

ISAAA の Rhodora R. Aldemita 博士と Panfilo De Guzman 氏； UPLB Cleofe S. Torres 教授、及び SEARCA -BIC ネットワーク管理者および特別プロジェクトコーディネーター Maria Monina Cecilia A. Villena 女史がワークショップでの科学コミュニケーションの専門家やファシリテーターの役目を務めた。参加者はまた、インフォグラフィックの開発状況、メディアとの交流、印刷物やラジオを通じての一般の人々との交流などについての方法論を学んだ。この活動は、ISAAA、DA- BPO、および SEARCA -BIC が共同開催したものだだった。





フィリピンの最新のバイオテクノロジーの進展については、以下の SEARCA BIC のサイトをご覧ください。 <http://www.bic.searca.org/> また、以下のサイトに問い合わせください。  
[bic@agri.searca.org](mailto:bic@agri.searca.org)

---

### 遺伝子工学評価委員会 (The Genetic Engineering Appraisal Committee, GEAC) は、11 新品種の遺伝子組換え作物の現地試験を許可した

インドの遺伝子工学評価委員会 (GEAC) は 2014 年 3 月 21 日に 11 種の遺伝子組換え作物の現地試験を承認した。環境・森林省の下にある GEAC は、遺伝子組換えトウモロコシ、コムギ、イネ、ワタとソルガムの現地試験を再検証すると決定した。しかし、州政府もまた試験の許可をする必要がある。

詳細については、以下のサイトをご覧ください

<http://www.geneticliteracyproject.org/2014/03/31/gmos-in-india-face-trials-despite-initial-approval/>.

---

### ISAAA は「Bt ワタの七不思議」というインフォグラフィックを制作

ISAAA は「Bt ワタの七不思議」を描くインフォグラフィックを制作して、インドの綿花セクターの変革に見られる重要な傾向を描いた。これは、大きなしかも最も綿密な 3 つの農業生態学的上明確に異なるワタ生産州の 2400 戸の Bt ワタ農業生産者についての調査から分かった主なる発見を基礎にしたものである。調査では、中央ゾーン内の Maharashtra 州の Vidharbha 地区の天水ワタ生育農業生産者 1000 戸、南ゾーンの Andhra Pradesh 州での半灌漑ワタ栽培農業生産者 1000 戸、北部のワタ栽培パンジャブ州の完全灌漑エリアの 400 戸の農業生産者について行ったものである。報告は、インドワタ改良工業会 (ISCI) が出版した。

「インドの Bt ワタの導入と取り込み経路」と題する報告は、CD Mayee 博士と Bhagirath Choudhary 博士の共著で、John Templeton 財団の支援で行われた。



高解像度インフォグラフィックは、以下のサイトから無料でダウンロードできる。

<http://www.isaaa.org/resources/infographics/affluentfarmer/affluentfarmer.jpg> ISCIの調査報告書「インドのBtワタの導入と取り込み経路」は、概要と全報告書の形で、ISCIとISAAAの以下のサイトから提供されている。

<http://www.isaaa.org/programs/specialprojects/templeton/adoption/Default.asp> または、<http://www.isaaa.org/india>。また、ISCIの調査報告書のハードコピーは、以下のサイトに注文して入手できる。charumayee@yahoo.co.in または b.choudhary@cgiar.org。

バングラデシュ農業大臣は、環境ストレスのための作物や技術の開発に生物工学者の働きを促した

バングラデシュの農業大臣 Matia Chowdhury 女史は、2014年3月1-3日に開催された第7回国際植物組織培養およびバイオテクノロジー会議の開会当たり、国内のバイオテクノロジー研究者が協力して、塩分、旱魃、冠水、低温など作物生産に関わる環境ストレスに対抗できる作物と技術を開発を促すアピールをした。彼女は、バングラデシュ政府は、常に最新の作物改良および収量増加のための現代的な技術を採用すると同時に、健康と環境を維持することが第一に重要なこととすることを支持していることを宣言した。

副理事長・A. S. M. Arefin Siddiqu 教授とダッカ大学副学長代理 Tazmery Rahman 教授は、食糧と栄養安全保障、貧困削減、豊かに生物多様性と環境を保全のため様々な地域の特定のニーズに適した遺伝子組換え作物の開発にたゆまぬ努力を世界的に取り組んでいるバイオテクノロジー研究者に謝意を表した。会議のテーマ「人間福祉のためのバイオテクノロジーとバイオセーフティ」の下に61論文が、作物改良、環境バイオテクノロジー、作物改良のための分子マーカー、遺伝子組換え作物の安全性と社会的受容、生物多様性保全のためのバイオテクノロジーの応用、機能ゲノミクス、プロテオミクス、植物遺伝子形質転換について、

Hans-Jörg Jacobsen 教授、F. J. Zapata-Aries 博士、Yasuzo Sakai 博士、Narendra Tuteja 博士、Andrew F. Roberts 博士、Lian-Ming Gao 博士、など約 300 人によって発表された。



会議及びバングラデシュのバイオテクノロジーの詳細については、バングラデシュバイオテクノロジーセンターの Khondoker Nasiruddin 教授と以下のサイトで連絡をとって下さい。  
[nasirbiotech@yahoo.com](mailto:nasirbiotech@yahoo.com).

---

### 韓国における植物バイオテクノロジーに関するセミナーシリーズ

遺伝子組換え作物のためのナショナルセンター（ NCGC ）は、植物ゲノミックス及び育種研究所（ PGBI ）と作物ゲノミックス及び育種研究チームと共同で、4月4日、6月3日、および2014年8月28日に韓国ソウルにあるソウル国立大学コンベンションセンターHoam Faculty House で植物バイオテクノロジーに関するセミナーシリーズを開催する。

セミナーのテーマは、従来育種および遺伝子組換え作物の開発になる。遺伝子組換え作物の開発と商業化に関する最初のセミナーは、韓国遺伝子組換え作物のためのナショナルセンター（ NCGC ）の RDA における次世代バイオグリーン 21 プログラムの指導者である Soo-Chul Park 博士が主導する。その他のトピックは、従来の育種における作物改良および見通し（Hee Jong Koh, Soeul National University）、および作物組成物の自然変動：原因と結果（Angela Culler 氏、モンサント）である。次のセミナーは単一の形質及び積み重ね形質（多重形質、スタック形質）の開発やそのリスク評価に焦点を当てる。

セミナーの詳細は、以下のサイトをご覧ください。<http://pgbi.snu.ac.kr/>、<http://www.gmcrops.or.kr/>、<http://cgb.snu.ac.kr/>

---

## 遺伝子組換えジャウトがインドの遺伝子工学評価委員会 (The Genetic Engineering Appraisal Committee, GEAC) の承認を求めている

インドは、すぐに別の遺伝子組換え作物の商業化を始めるようだ。それは、Bt ナスではなく、カルカッタの大学の科学者が開発した遺伝子組換えジャウトである。インド農業研究評議会 (ICAR) の副局長 Swapan K. Datta 氏によると、GM のジャウトの申請文書は、来月遺伝子工学承認委員会 (GEAC) に、商業化承認のために提出する準備ができています。彼は、2014 年 4 月 7 日にインド産業連盟が主催する **食糧安全保障の課題** に対応するための円卓会議の議論のなかでこれを述べた。

承認されたら遺伝子組換えジャウトは、インドの土地の 95% を占める Bt ワタに次ぐインドで二番目の非食用作物となる。

詳細は、以下のサイトにある。

[http://www.geneticliteracyproject.org/2014/04/08/india-set-to-approve-gm-jute-second-biotech-crop-after-cotton/#.U0ykJ\\_mSy-0](http://www.geneticliteracyproject.org/2014/04/08/india-set-to-approve-gm-jute-second-biotech-crop-after-cotton/#.U0ykJ_mSy-0)

---

## ISAAA は、「インドの BT ナスの物語」のビデオを発行

ISAAA は、最新の 24 分のビデオ：「インドの Bt ナス物語」と 7 分ビデオの「Bt ナス：より安全で、より良い&手ごろな価格」を発行した。「インドの Bt ナス物語」は、インドでの開発、規制緩和、需要とインドの Bt ナス (ナス/茄子) に関する議論のプロセスのドキュメントものである。専門家が客観的に主要な社会の懸念；インドが Bt ナスを必要とするのか？安全性評価プロセスは、どのくらい厳格なのか？何故 Bt ナスが安全なのか？Bt ナスの恩恵を受けるだろう？そしてなぜ、Bt ナスは農業生産者と消費者のために欠かせない？などに応えている。一方、短いビデオの「Bt ナス：より安全で、より良い&手ごろな価格」では、インドの Bt ナスの専門家、農業生産者と消費者、科学、安全性、規制と Bt ナスの経済についての多様な見解を取り上げて、インド社会がレトリック (言葉) ではなく証拠に基づいて、この画期的な技術を選択するように説明している。

教育ビデオは、組換え DNA 技術の科学、承認プロセスと 2001 年から 2009 年の規制当局が厳格な安全性評価を受けている Bt ナスの状態に関する科学と社会の橋渡しをしようとしたものである。最上位にある管理者である GEAC が、Bt ナスの環境放出の安全宣言を 2009 年 10 月に行った。これは、MOEF が 2010 年 2 月 9 日に Bt ナスのモラトリアムを課した前のことである。最近の 4 年間は、農業生産者と消費者が Bt ナスの導入を否定したことで、農業生産者にとっての農薬散布を大きく削減することと消費者にとっては残留農薬のないナスを手に行けるチャンスを含む大きな利益を失ってきた。





高解像度の長いビデオ：「インドの Bt ナス物語」と短い7分ビデオの「Bt ナス：より安全で、より良い&手ごろな価格で」を以下のサイトからダウンロードできる。

[www.isaaa.org/india](http://www.isaaa.org/india) and

<http://www.isaaa.org/resources/videos/btbrinjalindia/default.asp>. ISAAA Brief 38 on Bt Brinjal *The Development and Regulation of Bt Brinjal in India*。また、以下の ISAAA のサイトからもダウンロードできる。

<http://www.isaaa.org/resources/publications/briefs/38/download/isaaa-brief-38-2009.pdf>. 短い方は、ポケット K シリーズでも出版されている。これは、インドの 8 公用言語にも翻訳されていて、以下のサイトで見る事ができる。

[http://www.isaaa.org/kc/inforesources/publications/pocketk/default.html#Pocket\\_K\\_No.\\_35.htm](http://www.isaaa.org/kc/inforesources/publications/pocketk/default.html#Pocket_K_No._35.htm)。また、オリジナル DVD は、以下のサイトに注文下さい。

[b.choudhary@cgiar.org](mailto:b.choudhary@cgiar.org) or [k.gaur@cgiar.org](mailto:k.gaur@cgiar.org)

---

## ヨーロッパ

環境・食糧・農村地域省 (The Department for Environment, Food and Rural Affairs、DEFRA) は、遺伝子組換えカメリナ (和名：アマナズナ) の圃場試験を承認

環境・食糧・農村地域省 (DEFRA) は、遺伝子組換えカメリナ (和名：ナガミノアマナズナ、*Camelina sativa*) の圃場試験の承認を Rothamsted 研究所に与えた。許可は 2014 年、2015 年、2016 年および 2017 年にロザムステッド圃場での遺伝子組換えの圃場試験を実施するために 2014 年 1 月後半に提出された申請に対するものである。リスク評価は、環境放出に関する独立諮問委員会 (ACRE) によって検討された。そして DEFRA は 60 日間の公開協議を実施している。ACRE は、この申請に関する国民からのすべての科学的問題が解決されたことに満足している。

ロザムステッド研究所のプロジェクトの主任科学者 Johnathan Napier 教授は「我々は、私たちの提案の圃場試験を実施の許可をした DEFRA の決定を歓迎し、非常に喜んでいる。」と述べた。我々はこの 10 年間でこの植物の設計及び開発にかなりの進歩を遂げた。私と共同研究者は、今この植物を実際の条件下で圃場試験を行えることを非常に嬉しく思う。」と語った。

詳細については、次のニュースリリースを以下のサイトで読んで下さい。

<http://www.rothamsted.ac.uk/news/rothamsted-research-granted-permission-defra-carry-out-field-trial-with-gm-camelina-plants>。またプロジェクトの詳細については、以下のサイトを見て下さい。 <http://www.rothamsted.ac.uk/camelina>。

---

### オランダ政府は、バイオテック政策を明らかにした

オランダ内閣は、2014 年 4 月 10 日に新たに策定したバイオテクノロジー政策を 13 ページからなる文書をオランダ議会で議論した。文書では、植物や動物のバイオテクノロジーに向けた政府の立場を明確化し、遺伝子組換え生物 (GMOs) の承認プロセスの透明性と手続きに関する議会からの 5 つの要求に応じている。

政策文書で内閣は、農業におけるバイオテクノロジーの応用に付加価値があり、世界の食糧安全保障と食糧生産の持続可能性に利益があり、リスクが無視できる場合にのみ認めると述べている。全体として、植物バイオテクノロジーの使用は、賛成であるが、動物においては、反対の立場にある。

詳細については、世界の業情報ネットワークの報告を以下のサイトでご覧ください。

[http://gain.fas.usda.gov/Recent%20GAIN%20Publications/Dutch%20Government%20Reveals%20Its%20Biotech%20Policy\\_The%20Hague\\_Netherlands\\_4-11-2014.pdf](http://gain.fas.usda.gov/Recent%20GAIN%20Publications/Dutch%20Government%20Reveals%20Its%20Biotech%20Policy_The%20Hague_Netherlands_4-11-2014.pdf)。

---